

ドイツの哲

学者、カント

海潮音

2014.3.8

の散歩の話は

有名だ。毎日

同じコースを

同じ時間をか

けて歩くのが日課で、

町の人たちはカントの

姿を見て時計の狂いを

直したという。散歩し

ながら、彼は難解で知

られる著作「純粹理性

批判」をものにした◆

学生時代に聞いた逸話

を思い出したのも、入

院生活でしばらく「禁

足」を食らったからだ。

復帰した途端、階段で

膝が笑い、息が切れた。

まさに「足は第二の心

臓」。歩くことで足の

筋肉がポンプの役目を

果たし、血流が促され、

脳もカント並みに働く

◆…と頭では分かって

いながら、歩かないの

が車社会に生きるわれ

われ鳥取県民。全国一

歩く兵庫県と最下位の

鳥取県との差は1日2

千歩以上という。その

中で「ウォーキング立

県」を掲げ、県中部の

恒例行事となった「S

UN—IN(サンイン)

未来ウォーク」◆歩く

と心も平和になる。微

妙な日韓関係にもかか

わらず、同ウォークに

は毎年、大韓ウォーキ

ング連盟のイ・ガンオ

ク理事長をはじめ多く

の韓国人ウォーカーが

訪れる◆安倍首相とパ

ク大統領も「ウォーキ

ング会談」をすれば万

事めでたし…と夢想し

ながら、さて今年の開

催は6月7、8の両日。

カントに続けと奮って

ご参加を。